

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校) S25

目指す学校像	地域と連携して自立を支援し、「進んで学び、実践できる生徒」を育成する学校
--------	--------------------------------------

重点目標	1 学習支援を充実させ、生徒に「学ぶ楽しさ」を体験させることで、「主体的・対話的で深い学び」を促す。 2 基本的生活習慣の確立から自律心と社会性を身に付けさせ、3年間を見通した進路指導を実現する。 3 学校の情報発信と地域との連携を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(3月12日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<b>【現状】</b> ○少しづつだが生徒の授業などに対する要求が見出されてきたので、それらをさらに引き出し、予習復習を促す方策を検討している。 ○プロジェクターが教室に整備されたので、ICT機器の活用に取り組み始めた。 <b>【課題】</b> ○学校外での学習時間をどのように確保し、主体的な取り組みへと変えていくかが課題である。「学ぶ楽しさ」をもっと体験させるため、協調学習等の授業法の研究に積極的に取り組む。 ○研究授業などを通して、ICT機器の活用と研修を推進しながら、指導力向上のための工夫・改善を行う。	○学校以外での学習時間を週7時間以上とする。  ○ICT機器の運用や教授法の研修の機会をつくり、各教員の指導力向上を目指す。	①各教科において、計画的に週末課題を課す。 ②感染症対策を講じた学習指導を実施する。 ③進路希望に応じた青陵ゼミナールなどの講習や勉強会について、開講案内や申込方法を工夫し、多くの生徒を受講させる。	①日常の授業以外の学習時間の取組状況 ②感染症拡大防止のための臨時休業中の課題提示と動画等配信状況および感染拡大防止方策を施した授業再開ができたか。 ③進路希望に応じた講座の開講状況と生徒参加状況	①年次研を中心とした相互授業観察の実施状況および未来学び推進員の研究授業の実施状況 ①教室プロジェクターの活用状況  ②教科会の実施状況 ③授業力向上に係る県教委や民間団体主催の研修会等の参加状況	感染防止策を講じて進路希望に対応した指導ができた。 ①普段の1日の授業以外の学習時間で1時間以上の割合が上昇した。(H31.32.5%→R2.42.0%) ②登校制限された生徒への課題を概ね提示できた。 ③青陵ゼミナールなど進路希望に応じた講座を開講できた。	A
2	<b>【現状】</b> ○進路指導部による3年間を見通した進路行事計画の実践、生徒指導部による基本的生活習慣確立のための計画実践、さらには生徒会を中心とした生徒参加による学校行事の実施ができるようになった。 <b>【課題】</b> ○社会の変化に適応しながら、組織的に進路行事を実践し、生徒のより一層の向上心を高める。手帳等の指導により、生徒自身の学習計画等の自己管理を強化させたい。 ○今後も基本的生活習慣が確立された学校生活を継続させる。自転車通学が多いので、交通安全指導をさらに強化する。 ○学校行事において生徒の主体的な取組を増やす。部活動加入率の向上と活動実績の向上を目指す。	○新入試制度に対応し、生徒の多様な進路希望を実現する。  ○基本的生活習慣をさらに確立させ、主体的な生活と命の大切さを認識させる。  ○生徒の主体的活動の機会を積極的に設ける。	①民間ツールとして「学びの基礎診断」を有効活用する。多様な進路選択に対応した講習開講や面接指導等を実施する。 ②手帳活用によるスケジュールの自己管理と記録の機会を設定する。	①一般入試受験者数および、より高い意識を持った進路希望状況 ①4年制大学進学者90名以上 ②手帳甲子園の継続実施や「総探の時間」等でのキャリア教育に係る啓発的取組の実施	①②学校評価アンケート「服装や頭髪および交通ルールを守っている。」90%以上  ②立哨指導により交通マナーをさらに徹底させる。	①進路指導主事、就職支援アドバイザーや担任等による面談指導、学習指導員による添削指導等を実施できた。4年制大学進学希望者数76名、短期大学17名、就職67名、専門学校133名。 ②日常的な手帳指導を全学年で実施し、手帳甲子園も継続実施することができた。	A
3	<b>【現状】</b> ○部活動のPRも含めて、地元3校との小高交流事業やJRC部の特別支援学校との交流を継続的に実施している。 ○PTA・後援会と連携し、学校行事を運営することができている。 <b>【課題】</b> ○小高交流事業等、地域への貢献活動を積極的に推進する。 ○今後もPTA・後援会と連携して、教育活動における環境整備を推進する。	○地域とのさらなる協働を進めるとともに、魅力ある情報発信を行う。  ○PTA・後援会との連携を強化する。	①小高交流やボランティア活動などを積極的に実施する。 ②学校説明会や学校見学会の活動に加え、塾への情報提供を行う。	①小高交流事業の実施、部活動の地域交流、ふれあいクリーン作戦などのボランティア活動の参加状況 ②学校説明会や見学会参加者数	①学校評価アンケート「服装や頭髪および交通ルールを守っている。」90%以上  ②部活動の加入率及び大会・コンクール等での実績や成果を昨年度以上	全学年とも共通した基準で、整容指導や交通安全指導などに取り組めた。 ①②「服装や頭髪および交通ルールを守っている。」96.6%	A
			①学校評価アンケート「学校行事に積極的に参加している」90%以上 ②部活動の加入率及び大会・コンクール等での実績や成果を昨年度以上	①様々な制約の中で、学年別体育祭が実施できた。 ②仮入部期間等が不十分な日程の中、7月当初で部活動加入率80.0% 公式大会等は中止が多かった。	今後3年間を見通した進路行事計画により、生徒の第1希望の進路実現に向けて指導を継続していく。また、生徒に自分の適性をしっかり把握させ、より高い志を持って進路実現を目指すために「総探」等の時間を活用する。	B	
			①一斉メールやHPなどを通して、定期的に学校の情報を提供する。  ②保護者アンケートでの意見や要望を取り入れた方策を行う。	①学校評価アンケート「本校に通わせてよかった。」(入学満足度)90%以上維持  ②PTA・後援会役員の学校行事での参加者状況	①小高交流は野球部と書道部で実施できた。ふれあいクリーン作戦は3回は実施できた。 ②施設見学会として10回実施し、延べ731人が見学した。	A	
				①HPや一斉メールなどで適宜、情報を提供した。「本校に通わせてよかった。」H31.94.2% → R2.92.2% ②様々なPTA活動が制約を受けたが、紙面開催などで柔軟に対応することができた。	教育相談体制や外部機関とも連携し、各学年とも情報共有と共通理解を図りながら、全職員で生徒指導を実施している。今後も継続して規律ある学校生活の指導を徹底させていく。  今後HP等で学校行事や部活動大会結果の情報発信を積極的に行う。生徒会活動とも連携し、生徒の活躍する場面を増やし、生徒主体の学校行事を実施していく。	B	
					教務部を中心として、学校説明会の代替として施設見学会を放課後に実施し、地域の期待に応えることができた。今後の対応においても、英知を結集して臨む必要がある。	A	
					HPや一斉メールにて情報発信を行い、小高交流事業等を継続しながら、地域からの信頼をさらに高めていく。 保護者からの満足度を維持しながら、寄せられた意見を受け止め、学校運営に活かしていく。	B	

学校関係者評価	実施日 令和3年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>生徒との距離感を適切に取りながら、コロナ禍における様々な制約の中においても教育活動を継続できている。</p> <p>このような状況において、教育現場では学校評価の難しい年度であり、特にICT活用授業などの準備が急遽、求められて大変な状況であったようだ。</p> <p>リモート授業等の体制整備を行いつつ、引き続き生徒に寄り添いながら、生徒の進路実現に向けての取組や補習を継続してほしい。また、可能な限り、研修や教科会などで情報共有をしながら、「学ぶ楽しさ」を体験させて、授業力の向上を目指してほしい。</p> <p>学校評価生徒アンケートから、学年が上がるにつれての学習時間減少については、特に3学年では放課後等が卒業後の進路のための資金準備等のために時間が取られていることが要因の一つと考える。その中で各学年の9割近くで、学校生活への満足度が高いままで維持されている状況は教員による親身の指導や計画的な取組に対する評価を示しているため、今後も生徒の期待に応えながら、どのように学習に取り組む時間を作り出すかについて、検討を続けてほしい。生徒のメンタル面での支援体制についても継続していただきたい。</p> <p>また、最近の進路実績については、3年間の計画的な進路行事等の取組によるものとのことであるが、中学校や地域からの評判はかなり高いので、これからも新しい取組を行いながら、学校のさらなる成長を期待したい。</p> <p>PTA活動については、結局は顔が見えないままで時間が経過してしまっていて、反省点がある。教員も含めて保護者同士が互いに実際に顔をつき合わせて協議する場が改めて重要であることを認識した年度であった。</p> <p>今後、感染症対策を考えながら、いかに話し合う機会をつくり出していかかが課題である。</p> <p>こうした状況下なので、卒業後の連絡や集まりなどの呼びかけに同窓会をおおいに活用してほしい。</p>